

# JtCA

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

# Frontier

ジャパンマニュアルアワード2022結果報告



第17号  
2023年



一般財団法人  
テクニカルコミュニケーター協会

# Frontier

2023年 第17号

## CONTENTS

### 特集

**ジャパンマニュアルアワード2022結果報告** … P.02

はじめに … P.02

本年度のジャパンマニュアルアワード概要 … P.05

応募状況 … P.06

一次審査 … P.07

二次審査 … P.08

三次審査 … P.09

マニュアルオブザイヤー選考会 … P.10

審査結果 … P.12

入賞マニュアル解説 … P.14

選考委員コメント … P.23

**マニュアルオブザイヤー 2022受賞会社訪問**

**株式会社ミットヨ** … P.28

# ジャパンマニュアルアワード2022結果報告

2022年8月24日にTC協会CDシンポジウムにてジャパンマニュアルアワードの受賞マニュアルが発表され、10月5日には各賞の表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤーの選考・表彰が行なわれました。今号の特集では、本年度のジャパンマニュアルアワードの概要をまとめ、経過を振り返るとともに、入賞した作品に対する二次審査委員の解説と選考委員のコメント、マニュアル オブ ザ イヤーを受賞された皆様からのコメントを紹介します。

## はじめに

ジャパンマニュアルアワードは、2022年現在、消費者庁および国民生活センターの後援を得ている、日本で唯一の使用情報のコンテストです。使用情報の供給者であれば誰でも応募でき、一次審査、二次審査、三次審査および最終審査を経て優秀な作品には、「マニュアル オブ ザ イヤー」、「優秀賞」、「特別賞」などが贈られます。また、全応募作品に対して、IEC/IEEE82079-1 Edition 2.0を基に作成した独自の評価表に基づく採点結果と、一次審査委員によるコメントが送付されます。これが理由で使用情報の改善目的でアワードを利用する応募者も見受けられます。一次審査は一次審査委員により、上記評価表を使用して応募作品単位で行われます。二次審査はジャパンマニュアルアワード実行委員会において部門ごとに応募作品すべてを相対的に見て行われます。三次審査および最終審査は受賞候補作に対して学識経験者や消費者代表からなる選考委員によって行われます。また、一般部門においては「学生審査」を実施し、3つの大学の学生の方々から評価していただきました。

ジャパンマニュアルアワード実行委員(一次/二次審査委員)になるためには、以下の条件でご登録いただく必要があります。

A. 3年以上の実務経験者(使用情報の企画・設計、デザイン、ライティングのいずれかを経験)で、使用情報の評価に関心のある人

B: 産業機器の製品/サービスのマニュアル制作実務経験者

Aの方はジャパンマニュアルアワード実行委員会へ、A+Bの方はジャパンマニュアルアワード産業機器分科会へどうぞご登録ください。実行委員に登録されれば10時間の審査委員講習を受けることになり、これを修了した人が一次審査委員の資格を有することになります。

ジャパンマニュアルアワード実行委員会では毎年、結果報告書(本書)を発行しています。日ごろマニュアル制作に携わっている方々がこの報告書から何かを感じ取り、今後のマニュアル品質や制作技術の向上に役立てていただけるよう取り組んでいます。

## ■ ジャパンマニュアルアワード2022によせて

テクニカルコミュニケーター協会会長 綿井 雅康

本年のマニュアルアワードは、2019年以来3年ぶりに「リアル」開催となりました。感染状況の先行きが見通せないなかでしたが、予定通りに開催できたことに喜ばしく思います。

また、本アワードの成立には、ご応募いただいた企業の方々、審査を担当された方々、企画運営の委員の方々など、全ての皆さまのご協力とご尽力が不可欠です。改めて感謝を申し上げます。

本アワードはMOYを選出することが最終目的ですが、選出に至るプロセスに大きな意味があると考えています。応募される方が取り組む一連の作業、審査員による審査とフィードバック、受賞作品の選考とその講評、全ての活動がマニュアル制作の向上に貢献していると考えます。さらには、どのような立場であっても本アワードに関与することで、何らかの刺激を受け、新たな知見や異なる視点を得ていただいていると存じます。一人でも多くの方に参画いただき、また、一作品でも多く応募いただくことが、テクニカルコミュニケーション全体の質的向上につながると確信しています。

さて本年度の最終審査は京都シンポジウムにおいて実施しました。MOY候補作品の企業の方々、審査員、実行委員、全ての方々が会場に集結しました。開始前の緊張感も、MOY発表後の雰囲気も、久しぶりに体感できました。「生」で行われるプレゼンテーションには、動画配信では伝わらない「何か」が伝わってきたように感じました。言葉で表されるもの、言葉では表されないもの、そのすべてを受け止めて感じることに意義があると思う次第です。

コロナ禍を経て、新しい生活様式が普通の生活様式となっています。コロナだけではなく、社会の進展も予測不可能だと言われています。そうしたなかで、

使用説明に関わるTCの役割はさらに重要性を高めると考えます。本アワードを通して、新しい社会・新しい生活様式に貢献できるマニュアル・TCの在り方を模索していきたいと存じます。

今後とも皆様のご理解とご協力を是非ともお願い申し上げます。

## ■ 2022年のジャパンマニュアルアワード活動を振り返って

実行委員長 中原 司郎

今年度は昨年同様にコロナ禍の環境下のスタートではありましたが、世の中の動きに合わせて、活動形態をリモートからリアルに徐々に転換していくことが出来ました。

今年度の運営活動におけるトピックスは以下の内容となります。

- ・実行委員会及び審査員講習会はリアル開催を前提、リモート併用で開催。
- ・2次審査は2日間に亘ってリアル環境下、対面で実施することが出来た。
- ・マニュアルオブザイヤー選考会、表彰式をTCシンポジウムの会場の京都リサーチパークでリアル開催。(京都会場での表彰式は初開催)
- ・3年ぶりのリアル開催の会場で、今年度受賞作品の説明ツアーを実施。
- ・TCシンポジウム会場において、JMA実行委員会としてのイベント開催。
  - ・今年度の受賞作品に加え、リモート開催で展示が出来なかった2020年度と2021年度の受賞作品展示を行った。
  - ・1999年から2019年までの受賞作品を9つのカテゴリーに分類して、展示会を行った。

運営スケジュールは以下の通りです。

- ・2月：今年度の実行委員会スタート
- ・3月～4月：3回に分けて審査員講習会を実施

- ・ 5月：募集締め切り 1次審査（担当審査員による個別審査）
- ・ 6月：2次審査（相対審査）2日間 3大学での学生審査も併行して実施
- ・ 7月：3次審査（有識者審査）受賞作品確定  
マニュアルオブザイヤー候補作品選定
- ・ 8月：受賞作品発表（WEBでの告知）  
CDシンポジウムの中で、ミニパネル「JMAに  
応募しよう！」実施
- ・ 10月：マニュアルオブザイヤー選考会・受賞  
作品表彰式を京都リサーチパークで開催  
マニュアルオブザイヤー作品発表
- ・ 11月：年間活動総括

JMA実行委員会活動では、以下の4点をメリットとしております。

1. 審査方法を覚えることで、良いマニュアルを作るためのポイントを学べます。
2. 応募作品に触れることで、制作トレンドをつかめます。
3. 審査員講習会を通じて、使用情報に関する国際規格の基本を学べます。
4. 審査時に応募用紙を読み込むことで、マニュアル企画の重要性が学べます。

これら4点をメリットと感じていただける方は、是非ともジャパンマニュアルアワード実行委員会にご参画ください。皆様のご応募をお待ちしております。

今年度の応募作品数も昨年度に引き続き、かなり少ない点数となりました。社会環境の変化と合わせ、ここ2年間リモート開催となったことの影響は大きかったと感じています。

リモートでの開催の2年間から抜け出して、リアル開催へ転換することが出来た今年度は、今までにない様々な経験をすることが出来ました。今後より一層内容品質の高い審査活動を行っていく

ため、今年度の経験を活かし来年度に結びつけてまいります。

最後に、今年度の実行委員会活動におきまして多大なるご協力とご指導をいただきました実行委員会メンバーの皆様へ誌上をお借りしまして厚く御礼の意を表明したいと思います。本当にありがとうございました。

# 本年度のジャパンマニュアルアワード概要

## ■各部門のまとめ

### ● 一般部門

本年は、全22点のうち9点が対象製品の全マニュアルを審査対象とする応募だった。これは全体の約40%で、比率としては一昨年からほぼ横ばいである。審査対象は使用情報トータルの方がより正しい評価になるので、製品実機の提供と併せて今後この比率が増えていくことを期待したい。

さて、本年の傾向だが、製品概要や意図する使用目的が説明できていなかったり、専門用語を自明のこととして説明していなかったりすることで低評価になったケースが散見された。これはここ数年同じような傾向で、受賞作の中でも実践できていないことはあるので注意が必要である。特に専門用語については、制作時に設定した対象読者と照らし合わせ、どこまで説明すべきかの検討を、今一度深堀して欲しい。他には、紙とウェブ (HTML や動画) との連携の悪さが低評価につながった作品もあった。ただ、個々の完成度が低かったわけではないので、制作～検証を通じて常に全体を俯瞰する姿勢を持っていれば、一気に改善されると思われる。次回、改善された作品が応募されることを期待したい。

### ● 産業部門

今年は、産業部門の応募点数は2点であった。昨年よりさらに減少しておりCOVID-19の影響はあいかわらず大きいように思われる。とはいえ、応募作品に対する評価は高く、2点ともに優秀賞に選出された。産業部門の応募マニュアルは一般に基本に忠実に作られており、IEC 82079-1の要求事項を満たそうとする努力が随所に見いだされる。それに加えて、今回優秀賞に選ばれた2点はデザイン面でも高いレベルに達していると評価され、マニュアルオブザイヤーにノミネートされた。

# 本年度のジャパンマニュアルアワード概要

## 応募状況

### ■ 応募点数 (総数 24 点)

一般部門	.....	22 点
産業部門	.....	2 点

### ■ 応募会社 (五十音順)

株式会社オーディオテクニカ

カシオ計算機株式会社

TOTO株式会社

株式会社バッファロー

パナソニック エレクトリックワークス クリエイツ 株式会社

日置電機株式会社

不二サッシ株式会社

株式会社 富士通ゼネラル

株式会社ミットヨ

ヤマハ株式会社

株式会社LIXIL Housing Technology

## 一次審査

### ■ 審査基準

使用説明の国際規格IEC/IEEE 82079-1 Edition 2.0に対応した評価基準で審査を行いました。一般的なチェックリストは使用せず、ジャパンマニュアルアワード委員会が独自に作成した評価表と呼ばれるシートを使用して採点しています。応募分野により、またマニュアルの性質により、チェックリストでは当てはまる項目と当てはまらない項目の違いが顕著になる場合があります。このような場合、チェックリストを使うと評価結果にばらつきが出て、公正な評価が難しくなる恐れがあるため、より柔軟性のある評価表を使用しています。

### ■ 審査方法

審査委員はジャパンマニュアルアワード委員とジャパンマニュアルアワード実行委員です。一冊のマニュアルにつき3～5名の審査委員が審査しました。なお一部のマニュアルについては出張審査を行いました。

### ■ 講習会

ジャパンマニュアルアワード実行委員になった人には、評価基準と評価表の使いかたを学ぶために10時間の講習を受けていただきました。

講師：ジャパンマニュアルアワード委員

遠藤 幸夫

清水 義孝

徳田 直樹



## 二次審査

### ■ 審査方法

例年は審査委員全員が2日間に渡って全作品の相対評価を行なうのですが、本年はコロナ禍のために全員参集がかなわず、参加可能な審査委員のみで、一次審査における上位マニュアルを中心に1日で相対評価を行ないました。

### ● ジャパンマニュアルアワード委員会 (五十音順)

#### <委員長>

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会 副評議員長

#### <委員>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社  
清水 義孝 株式会社クレステック  
瀬戸 大地 株式会社クレステック  
根本 隆志 元キヤノン株式会社

八村 健司 株式会社JVCケンウッド  
林 美里 DMG森精機株式会社  
東野 誠 Polaris Infotech株式会社  
樋口 史代 パナソニック株式会社  
間瀬 元 TOTO株式会社  
山本 あさひ 株式会社PFU

#### <事務局>

井上 彰  
上田 優子

### ● ジャパンマニュアルアワード2022 実行委員会 (五十音順)

#### <実行委員長>

中原 司郎 パナソニック エレクトリックワークス クリエイツ株式会社

#### <実行副委員長>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社

#### <実行委員>

安積 美香 パナソニック エレクトリックワークス クリエイツ株式会社  
上野 由紀子 DMG森精機株式会社  
小島 真一郎 YAMAGATA INTECH株式会社  
小平 勉 日本電気通信システム株式会社  
斉藤 雅人 ヤマハ株式会社  
都築 行博 岡村印刷工業株式会社  
名古屋 美穂 キヤノン株式会社  
西山 貴 マツダエース株式会社  
野村 雅樹 YKK AP 株式会社

### ● ジャパンマニュアルアワード2022 産業機器部門分科会 (五十音順)

#### <主査>

久保 達昭 株式会社ハル

#### <実行委員>

相武 絵美 株式会社テクノツリー  
上野 由紀子 DMG森精機株式会社  
梯 珠美 エスペック株式会社  
寺田 安夫 パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社  
橋本 玲子 村田機械株式会社  
林 美里 DMG森精機株式会社  
水口 実 株式会社情報システムエンジニアリング  
宮坂 朋子 株式会社ミットヨ  
和田 司 日置電機株式会社

#### <事務局>

山崎 敏正

## 学生審査

常葉大学 安武研究室参加 8名(3年生6名、4年生2名)

神奈川大学 高野倉研究室参加 8名(全員3年生)

千葉工業大学 安藤研究室参加 5名(全員4年生)

## 三次審査

### ■ 審査方法

二次審査を経て各部門の上位マニュアルを、有識者による選考委員で審査しました。

### ● 選考委員(五十音順)

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

市川 美知 東京電機大学 理工学部 情報システム学系 非常勤講師

大村 宏之 一般社団法人 日本食品機械工業会 事業部 部長

鈴木 弘彦 独立行政法人 国民生活センター 商品テスト部 テスト企画管理課 課長

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会 副評議員長

綿井 雅康 一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会 会長

十文字学園女子大学 副学長(人間発達心理学科 教授)



## 表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー選考会(最終審査)

本年は、各賞の表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー選考会をまとめて、10月のTCシンポジウム京都開催で実施しました。

表彰式では、受賞作品の関係者23名が出席し、奨励賞、学生賞、特別賞、優秀賞の表彰状と盾が会長および実行委員長から授与されました。さらに、マニュアル オブ ザ イヤーにノミネートされた3社に対しても、表彰状が会長から授与されました。

マニュアル オブ ザ イヤー選考会では、ノミネートされた3作品(3社)の制作担当者によるプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションは1作品10分という限られた時間ながら、各社とも作品のコンセプトや取り組みなどが情熱的に語られ、白熱したものになりました。プレゼンテーションの終了後、選考委員による別室での討議を経てマニュアル オブ ザ イヤーが発表されると、会場は大いに盛り上がりました。マニュアル オブ ザ イヤー受賞会社には表彰状およびトロフィーが授与され、受賞者は受賞のスピーチにて、表彰式を配信で見ている同僚に向け、受賞の喜びを伝えていました。

### ■ 式次第

#### ●表彰式

1. テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
2. 独立行政法人 国民生活センター商品テスト部テスト企画管理課 課長 鈴木弘彦様 挨拶
3. ジャパンマニュアルアワード 2022 中原実行委員長による経過報告
4. 表彰式：奨励賞、学生賞、審査委員特別賞、優秀賞（表彰状・盾の授与）
5. 表彰式：マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞（表彰状の授与）

#### ●マニュアル オブ ザ イヤー選考会

1. ノミネート作品プレゼンテーション
  - (1) 日置電機株式会社  
PW8001 パワーアナライザ 取扱説明書
  - (2) 株式会社ミットヨ  
アッセンブリタイプ アブソリュートリニヤスケール ABS AT1103A, ABS AT1143, ABS AT1153  
ユーザーズマニュアル
  - (3) ヤマハ株式会社  
電子ピアノ ARIUS YDP-165, YDP-145, YDP-S55, YDP-S35  
取扱説明書、クイックオペレーションガイド
2. ジャパンマニュアルアワード 2022 評価概要
  - ・ジャパンマニュアルアワード清水委員からの報告
  - ・別室にて選考委員による選定協議

### 3. マニュアル オブ ザ イヤー発表および表彰

- (1) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
- (2) ジャパンマニュアルアワード 2022 中原実行委員長から発表
- (3) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長から表彰状・トロフィーの授与
- (4) マニュアル オブ ザ イヤー受賞会社 挨拶
- (5) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 講評



(株)ミットヨさんへのMOY表彰状授与の様子



(株)ミットヨさん担当者による挨拶の様子

# 審査結果

## ■ 入賞マニュアル一覧

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
マニュアル オブ ザ イヤー		アッセンブリタイプアブソリュート リニヤスケール ABS AT1100 シリーズ (ABS AT1103A,ABS AT1143,ABS AT1153) ユーザーズマニュアル	株式会社ミットヨ	14
優秀賞	一般部門	スマートフォン用 CD レコーダー & DVD 再生プレーヤー「ラクレコ」 DVD ビデオ再生対応 Wi-Fi モデル RR-PW1-WH/N らくらくセットアップシート	株式会社バッファロー	18
		電子ピアノ ARIUS YDP-165, YDP-145, YDP-S55, YDPS35 取扱説明書、クイックオペレーションガイド*	ヤマハ株式会社	16
	産業部門	PW8001 パワーアナライザ 取扱説明書*	日置電機株式会社	17

\* マニュアル オブ ザ イヤー ノ ミネート

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
特別賞	審査委員特別賞 (優秀シートマニュアル賞)	NAS WS5420RNS2/WS5420RNW2 シリーズ 導入ガイド	株式会社バッファロー	19
	審査委員特別賞 (作り手の願いが伝わる で賞)	ルームエアコン nocria Z シリーズ 2022 年モデル AS-Z222M-W (代表機種) 取扱説明書	株式会社富士通ゼネラル	20
	学生賞	システムキッチン Lacucina ラクシーナ 取扱説明書 (総合編)、動画	パナソニック エレクトリックワーク スクリエイツ株式会社	21
奨励賞		スマート L2 スイッチ SWX2220-10NT / SWX2221P-10NT はじめにお読みください、ユーザーガイド	ヤマハ株式会社	22
		パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式 施工説明書 施行説明書 (品番 :H0B411)、施行説明書 (品番 :H0B412)	TOTO 株式会社	22

## ■ 応募数及び受賞数

ジャパンマニュアルアワード 2022 は、応募が 24 作品。

部門	応募数	受賞数			
		優秀賞	実行委員 特別賞	学生賞	奨励賞
一般	22	2	2	1	2
産業	2	2	0	0	0
合計	24	4	2	1	2



## 入賞マニュアル解説

### ■マニュアル オブ ザ イヤー受賞作品

### マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞受賞作品 優秀賞受賞

#### 産業部門

アッセンブリタイプ アブソリュートリニヤスケール

ABS AT1103A, ABS AT1143, ABS AT1153

ユーザーズマニュアル

株式会社ミットヨ



#### ● 選考委員のコメント

紙冊子の取扱説明書にQRコードを掲載し、動画・PDF文書・WEBサイトなどにアクセスしてもらうことは、一般的であり、推奨される手法だといえる。2022年度のマニュアルオブザイヤーを

獲得した本マニュアルも、機器の取り付け方法説明に関する動画のQRコードを掲載している。文章を補完するという視点から動画が作成されている点、とりわけ、NG情報（そうしてはいけない取り付け方）までも動画にしている点や、言語化が難しい動作・操作に関する情報を動画とした点が、マニュアルオブザイヤーに相応しいと評価された。また、マニュアル制作の基本である「読み手に寄り添う」が実現していることも評価された点で

ある。本マニュアルの場合には、機器の取り付けを行う専門家が読み手であり、実際の取り付け作業を起点としてマニュアルの構成を見直したり、基本的なレイアウトやデザインの工夫改善が図られている。かつて、産業機器の取扱説明書は「技術者による技術者のための・・・」という状況にあった。しかし、取扱説明書の専門制作部門が、開発技術部門・営業部門・サポート部門と連携してこそ、ユーザーが本当に必要とするマニュアルが完成するのではないだろうか。本マニュアルもこうした体制の中で制作されたものであり、その点もマニュアルオブザイヤーに相応しいといえる。

## ● 二次審査委員の解説（シンポジウム展示パネルから転載）

全体的に見やすく、わかりやすい取扱説明書である。目次から全体像をつかむことができ、冒頭にユーザーへの安全配慮や必要な情報の記載があるため、安心して取り扱うことができる。リニヤスケールを機器へ取り付ける作業向けとして、過不足のない情報を提供している。

紙媒体で伝えにくい情報については、動画へ誘導することにより、わかりやすく説明をしている。目次のアイコンによって、どの説明に動画コンテンツがあるのかひと目でわかり、動画自体もシンプルでわかりやすい。また、音声がないこと

を画面上で確認できる配慮もされている。

イラストに関しては全体的に大きく、見やすいレイアウトになっているが、イラスト自体は線画タッチで、アングルも複数あるため説明の部位がわかりにくい。コントラストや重要でない線の削除、線の太さにメリハリをつけるなどの工夫を期待する。

トラブルシューティングをフローチャートで表現しているのは評価できるが、対処方法にたどり着くルートが煩雑で、対処方法の手順は目次から調べる必要があるため、さらなる改善を期待する。

## ● 受賞者の声：株式会社ミットヨ

このたびは、最高評価の「マニュアル オブ ザ イヤー 2022」をいただき誠にありがとうございました。まさか受賞できるとは正直思っていませんでしたが、大変うれしく、光栄に感じています。

マニュアル オブ ザ イヤーのプレゼンテーションでもお話ししましたが、我々の部署であるテクニカルコミュニケーション室は、「弊社の取扱説明書を分かりやすいものへ品質改善すること」を目指して、2015年に新たに設立された部署です。「分かりにくいから分かりやすくする」という目標は立てたのですが、何をどうすれば実現できるのかわかりませんでした。そこで、我々は「TC協会による外部評価」や「顧客モニタリング」の実施や、「マニュアルアワード」へ応募することで、まずは弊社の取扱説明書の現状を知ることから始めることにしました。

時には厳しい評価結果やお客様の声を検討・解析することにより、「分かりやすさ向上」のための具体的な改善点を決め、そのことを標準化のための「制作ガイドライン」に取り込みながら、実際の取扱説明書に反映させる作業を開発部門・営業部門と協力しながら、この7年間繰り返し実施してきました。

今回の受賞は、我々テクニカルドキュメントの制作部門にとって大きな励みと自信になります。特別なことは何もありませんが、今後もこれまで通り、「お客様に分かりやすい取扱説明書を提供する」ために、部門の垣根を越えた協同作業で更なる品質改善に努めたいと考えています。



## ■ マニュアルオブザイヤーノミネート賞受賞作品

# 優秀賞受賞

### 一般部門

電子ピアノARIUS YDP-165, YDP-145, YDP-S55, YDPS35

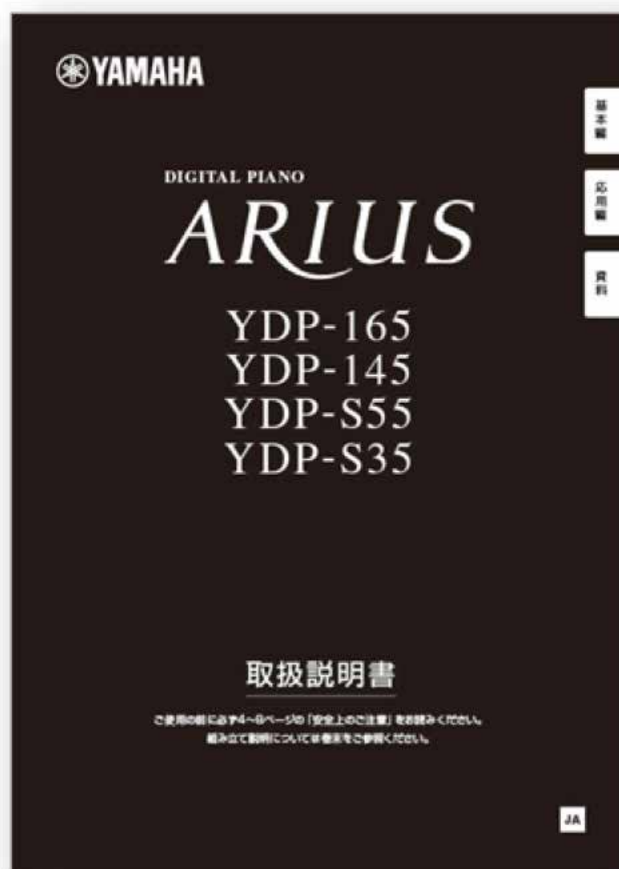
取扱説明書、クイックオペレーションガイド

ヤマハ株式会社

使用説明の対象製品は、ピアノらしいデザインにするため、パネルのボタン数を7個に抑え、約30種類の機能を鍵盤にも割り当てている。これは初心者にとって、わかりにくいユーザーインターフェースだろう。

「取扱説明書」は、その対象製品と読者の特徴を考慮し、これらの機能を48ページに整理した上で、ツメ、目次、および索引によって機能と使い方とを探しやすくしている。また、電源のつなぎ方など細かい点まで配慮できていることから高評価となった。しかし、ツメの粒度が粗いので、もう少しきめ細かい構成にすれば、読者は機能と使い方とをさらに探しやすくなるだろう。

「クイックオペレーションガイド」は、鍵盤とボタンとに割り当てられた機能が1枚のB5シートに一覧になっていてわかりやすい点が評価された。しかし、かなり小さめの文字で情報が詰め込まれていて読みにくい。同様の内容の電子マニュアルをA4シートに印刷すると、大きめの文字で読みやすくできることを記載するなどの改善を期待したい。



## ■ マニュアルオブザイヤーノミネート賞受賞作品

### 優秀賞受賞

#### 産業部門

#### PW8001 パワーアナライザ 取扱説明書

#### 日置電機株式会社

非常に完成度が高く、使いたくなるような仕上がりだという印象。目次から全体が俯瞰でき、探したい情報にたどり着きやすい構成になっている。さらに、表紙の簡易目次は、必ず読んで欲しい項目にユーザーを誘導するのにとても効果的。測定の流れが簡潔に示されているため、作業の全体像がわかり、目的意識を持って読み進めることができる。各手順にイラストが使われているため、ユーザーは安心して作業を進めることができる。

今回の審査対象は冊子マニュアルだったため、印刷後の微妙な色の違いが見にくい部分もあったが、PDF は明確で見やすく仕上がっていた。

表紙のQR コードからアクセスできるアンケートは、お客様の声をマニュアルに取り込むのに効果的。マニュアル全体を通してユーザー目線で作成されていることが伝わってくる。

消耗品、FAQ、トラブルシューティングなどが「保守・サービス」の項目に埋もれていたため、必要なときに短時間で見つけられるような工夫を期待する。



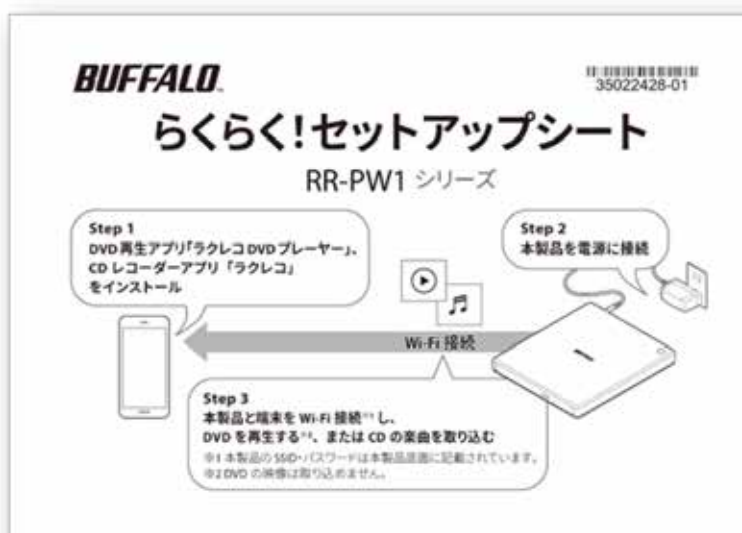
## 優秀賞受賞

### 一般部門

スマートフォン用CDレコーダー & DVD再生プレーヤー「ラクレコ」

DVDビデオ再生対応 Wi-Fiモデル RR-PW1-WH/N

らくらくセットアップシート 株式会社バッファロー



本製品の操作説明を冒頭で3ステップかつイラスト入りで説明するなど、ユーザーにとってわかりやすく配慮されている点が高く評価された。

文字サイズも大きめで目的の箇所も検索しやすく、文字を詰め込んでいないため読みやすい。また、おもて面右側にユーザーが本製品を使用する上で最初に必要な情報（製品概要/各部の名称/アプリのインストール）を配置するなど、紙面デザインがユーザーの使用用途に配慮されている。

一方、製品概要の説明および折り仕様は改善の

余地がある。製品概要の説明は、冒頭で3ステップの操作説明はあるが、本製品がスマートフォンなどと接続して使用するCD/DVDドライブである説明は無く、既に製品概要を理解しているユーザー向けの説明になっている。折り仕様では、A2サイズ→A6サイズまで細かく折られているためか、シートを広げた後、畳むときに難しい点が気になった。本製品を初めて使用するユーザーも安心して使用できるよう、今後の改善を期待したい。

## ■ 特別賞受賞作品

# 審査委員特別賞(優秀シートマニュアル賞) 受賞

### 一般部門

---

## NAS WS5420RNS2/WS5420RNW2シリーズ 導入ガイド

### 株式会社バッファロー

応募会社は同じジャンルの製品のマニュアルを継続的に応募してマニュアルを改善してきた。ジャパンマニュアルアワード(JMA) 実行委員会が8月のコミュニケーションシンポジウムで推奨したJMAの活用方法「PDCA サイクルを回すような感覚でJMAをご活用」を地で行ったかたちである。

シートマニュアルとして優れた作品であると評価し、これを見習ってJMAの応募が増えることを期待し、JMA 実行委員会から応募会社への感謝の意を込めて審査委員特別賞 優秀シートマニュアル賞を贈ることとした。



# 審査委員特別賞(作り手の願いが伝わるで賞) 受賞

## 一般部門

### ルームエアコン nocria Z シリーズ

#### 2022年モデルAS-Z222M-W (代表機種) 取扱説明書

#### 株式会社富士通ゼネラル

今回、審査員特別賞として選出したのは、富士通ゼネラル社のルームエアコンの取扱説明書である。この取扱説明書は、様々な工夫がなされている。たとえば、コールセンターに寄せられる声をもとに「よくあるご質問」を、目次よりも前の2ページ目に掲載している。また、目次の後に家庭内のイラストを掲載し、シーンごとの活用法をわかりやすく示して本文へのガイドとしているなど、利用者の状況を考慮した工夫がなされている。

だが、今回着目したのは機能ごとに書かれている「詳しい機能の働き」についてだ。この「詳しい機能の働き」は、コラム的に表現されたもので、文字サイズも小さく書かれたものだ。ほぼ全ての機能について詳しく書かれている。中でも特徴的なのが「AI自動運転」の解説だ。人工知能がどんな予測をしようとしているのか、3つの予測の働きが解説されている。実に詳しく書かれており、すべての利用者に必要な情報ではないかもしれないが、より深く製品を理解するのに役立つ情報であるのは間違いない。

詳しい機能の解説を読んでいると、この製品の作り手がどれほど利用者のことを願って開発したのかが伝わってくるように感じる。たとえば「おやすみタイマー」は、単に時間が来たら電源が切れる機能ではなかった。冷房の場合、就寝中に冷やしすぎがないよう、30分ごとに0.5℃ずつ温度を上げ、2℃上がった時点で維持し、時間が来たら運転を停止するような配慮がされていた。実に丁寧な設計だったのだと、感心させられる。

利用者の状況改善を願う作り手の気持ちや願いが伝わることは、複雑化・ブラックボックス化する家電製品において大切な観点ではないだろうか。愛される製品づくりのために、取扱説明書が果たすことのできる新たな役割なのかもしれない。

ある審査員からは、このコラム部分を「設計者からみなさんにお伝えしたいこと」のようなさらに踏み込んだタイトルにしてはどうか、といった意見もあった。他の改善点としては、見出しの書体のサイズが一定でない表現は、審査員から指摘があった点の一つである。更なる改善により、新たな可能性を切り拓くような取扱説明書となることを期待する。

安藤昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授  
(最終審査委員)

# 学生賞

## 一般部門

### システムキッチン Lacucina ラクシーナ 取扱説明書(総合編)、動画

### パナソニック エレクトリックワークス クリエイト株式会社

イラストが多く掲載されていることで実生活での使い方を想定しやすかった点が評価を得た。実際にキッチンを使うユーザーが必要な情報にたどりつきやすいという意見が多くあがった。

基本の取扱い情報だけでなく、収納のコツやユニットのお手入れで使用できるスポンジや洗剤が一覧表で記載されており、ユーザーが必要な情報を探しやすい冊子に仕上がっている。

イラスト内にユニットや部位ごとの最大積載量が明記されている点も分かりやすいと好評であった。

目次から動画に誘導する試みも評価したい。しかし、目次に掲載されている動画のQRコードが近くに並んでいるため意図した動画を読み取ることができない、ユニットの説明ページにも動画のQRコードがあった方が良いという意見もあった。

学生賞は、2019年から行っている大学生による審査です。様々なメディアを使いこなしている若い人たちが、マニュアルをどのように評価するかを知ること、新たな視点への気づきを得る狙いがあります。

今年度は、常葉大学安武伸朗教授研究室(8名)、神奈川大学高野倉雅人教授研究室(8名)、千葉工業大学安藤昌也研究室(5名)で行われました。審査対象は最終審査と同様一般部門7件、産業部門2件の9件です。審査は、各校ごとに行いました。まず、学生同士で評価基準を話し合ったのちに個人審査を行い、合評による審議により上位作品の選出と順位づけを行いました。

3校による審査結果をもとに、最終審査会において総合的に上位に選出されたパナソニックハウジン

グソリューションズ株式会社の作品を「学生審査賞」として表彰することとなりました。

学生の評価のポイントを挙げると、「圧倒的な量のイラスト表現」、「数量を具体的なもので換算」、「豊富なコツや役立つ情報」などがあります。

「圧倒的な量のイラスト表現」という面では、単にイラストを多く載せているだけでなく、人の動作が伴う部分では人物や手が描かれていたり、手入れで使うサンドペーパーの番号をイラストで目の荒さを表現したりなどの工夫がなされています。言葉での表現を、イメージで補うことができる。ビジュアル要素を重視する傾向は、学生らしい観点だといえます。

また「数量を具体的なもので換算」という点では、棚の最大積載量をカップや中皿、大皿など具体的な食器で換算し、目安となる個数を示すなど、具体的に表現している点が評価されていました。

「豊富なコツや役立つ情報」は、お手入れ方法の動画へのリンクもあり充実している点が評価された。一方で、“そもそもマニュアルを見ないと困らない製品ではない”ことから、より明確に“知っていたら長持ちして得する知識”というように位置付けを明確にした方が伝わりやすいのではないかと、といった指摘もあった。

安藤昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授  
(最終審査委員)

## 奨励賞

### 一般部門

---

#### スマートL2スイッチ SWX2220-10NT / SWX2221P-10NT

はじめにお読みください、ユーザーガイド

ヤマハ株式会社

ネットワーク設計者やトラブル対応時の運用担当者などが対象読者。難しい内容が含まれ、イラストも少ない印象があるが、内容をよく理解している人が扱う製品のため、一般家庭で使う製品のような平易な表現は必要ないだろう。テキスト中心でも、表組みにして情報が整理されているため、理解しやすい。

HTML のユーザーガイドは検索結果がハイライトされ、AND 検索にも対応している点で、探しやす

さの工夫も見られる。

ただ、インジケータの説明 (2.5.4 LINK/ACT モードの表示内容) は情報整理の方法に問題がある。製品のインジケータを確認したうえで、該当する状態を探すわけであるが、「ー」が何を指すのか戸惑った。右と左のインジケータの表を無理に1つにまとめた結果、誤解が生じる表現になっている。色やイラストの使用など、HTML の特長を活用してほしかった。

### 一般部門

---

#### パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式 施工説明書

施行説明書 (品番:H0B411)、施行説明書 (品番:H0B412)

TOTO株式会社

施工未経験者にとっては難しく思われるが、対象である施工業者にとっては、非常に効率よく必要な情報を確認することができる。施工業者が、マニュアルを大きく広げて全体図を確認しながら作業できること、作業フローで全体の流れを確認できることが高く評価できる。

1枚の紙面にすべての情報が含まれていて便利に使えるというメリットがある一方で、「リモデルの

場合」のような難しい表現で条件分岐がわかりにくくなっている。施工業者が迷わず必要な情報を確認できるよう、さらなる工夫を期待する。

使用する工具の説明は、記載内容に不足があると思われる。必要な情報を漏れなく含めることで、ストレスなく施工作業を進められるような、使い勝手のよいマニュアルに仕上がるだろう。

## 選考委員コメント

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

---

本年度もジャパンマニュアルアワードの最終審査をさせていただく機会を賜り、感謝申し上げます。

さて本年度の審査をさせていただくことを通して、読者の取説利用体験の観点から2つのことを感じました。

1つは、メディアの組み合わせや連携に対する考え方が、顧客である読者の期待と合致したものであるか、という点です。冊子、1枚シート、Webサイト、動画など、年を追うごとに、取扱説明書のメディアは多様化し、また相互の連携の度合いが増しています。読者の体験を考えると、期待する情報がそれぞれのメディアに合った形式で提供されるよう計画されているでしょうか。今年の審査では、冊子のQRコードから動画にアクセスしてみたら「見たいのはこれじゃないんだけどなあ」と感じる表現がいくつかありました。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの人が映像メディアに親しむこととなりました。こうした変化は、メディアに対する読者の期待に影響するのではないかと思います。今後より一層、読者の体験を考慮した計画が必要になるものと思います。

2つ目は、製品の「作り手の願い」をどのように表現し伝えるか、という点です。「作り手の願い」というと突飛に聞こえるかもしれませんが、しかし、人工知能などを用いた製品では、単に機能の概念を表現するだけでは十分ではない場合があります。なぜ、そのような機能をつけたのか。そこには、ユーザーにこうなって欲しいという作り手の願いがあるはずです。人工知能のような伝わりにくい機能の場合、むしろ作り手の願いを伝えることが、読者にとって理解を深めることになるかもしれません。今回、審査員特別賞となった株式会社富士通ゼネラル「ルームエアコ

ンnocria7シリーズ2022年モデルAS-Z22M-Wほか」は、各ページで「詳しい機能の働き」として作り手の願いに相当する内容が表現されています。情報の整理などに課題はありますが、今後の取説の一つの方向性を感じる作品でした。

これからも、より良いマニュアル体験の実現に期待しております。



3次審査に残った9作品はいずれも力作揃いでした。コロナ禍の影響下で、制作過程での制作チーム内での検討、他部署との交渉、協力会社・印刷会社との対応などWeb会議が多かったと想像します。リアルとメールだけではないWebコミュニケーションが情報共有のあり方により良い効果をもたらし、多くのマニュアル改善につながっていると感じました。

テレワークやネット中心のプライベートの楽しみ方の変化に対応したプロダクトに注目しました。バッファロー社の2つの作品はユーザーニーズを踏まえて、情報の流れを素早く的確に把握できるスマートなシートマニュアルに仕上がっています。

産業部門のマニュアル2作品はいずれもドキュメントデザイン全般にわたる知識と制作スキルの向上を感じさせます。日置電機のパワーアナライザーは技術情報をWeb閲覧することで、より詳しく豊富な情報を提供することができます。産業系のマニュアルの新しい潮流と言えるでしょう。

毎年コメントとして申し上げますが、動画をQRコードからアクセスできるのはよいのですが、コンテンツにもっとスピード感が重要です。ユーザーテストの実施が有効でしょう。

最後に、ユーザー（カスタマー）に応じた情報整理、取捨選択、表現、発信の手法は、マニュアル制作にとどまらず日常業務におけるプレゼンテーションや交渉などに大いに役立つものであり、テクニカルコミュニケーターの社内外におけるプレゼンス向上につながる専門領域であること認識し、更なる経験を積んでください。

今年も選考委員としてMOYに携わることができ、大変光栄です。

3次審査に残る取扱説明書（以下、取説）は、いずれもIEC/IEEE 82079-1(以下、規格)の要求を満たす製品ばかりです。規格要求である“使用情報の体裁”の観点から気づいた点をコメント致します。

規格が要求する取説の体裁の一つに視認性、読みやすさ等があります。文字サイズ、フォント、太さ、行間などを変えることで、視認性や読みやすさを高めることができると規格は規定します。しかし“どのように”という具体的な体裁は、制作者の経験やセンスに依存するところもあるようです。

そのため、時として微妙にサイズや太さが異なる複数の大きさのフォント、反転文字、下線などの強調文字を1ページ内に散りばめた取説を目にすることがあります。重要性に応じて文字を変えているのでしょう。しかし、1ページ内に多種類の強調を施すと、読みにくくなるだけでなく、目的であるはずの重要性も伝わりにくくします。

マニュアルアワードの受賞製品を見ることは、このような規格だけでは分からない“読みやすさ”などの編集技能向上に役立つと考えます。

最初に、今年もコロナ禍の影響が続き様々な制約がある中、エントリーいただいた事業者の皆様、運営にご尽力いただいた皆様に御礼申し上げます。

今年も審査対象は紙マニュアルが主体でしたが、3次審査の対象9作のうち、ウェブ動画やPDFを用いた電子マニュアルは4作と昨年から倍増しました。3作は紙マニュアル上のQRコードからスマホなどでアクセスするものでしたが、動画の内容がわかりやすく、再生時間も適切で、紙マニュアルだけでは理解しにくい部分を上手く動画で補完しているものが印象に残りました。また、製品の組み立て方について、マニュアルの冒頭にQRコードを配置することで「まずは動画を見て欲しい」という意図を感じられるものがありました。一方、アクセスした先のPDFが「画面で見るマニュアル」なのにスマホの画面では見にくく、

勿体なく感じるものもありました。まだまだ発展の余地がある電子マニュアルですが、電子マニュアルならではの特色を生かした作品が来年以降エントリーされることを期待しています。

紙マニュアルについては、3次審査まで残ったものはアワードに例年ご応募いただいている事業者の作品ということもあり、どれも一定のレベルに達していました。一方、3次審査まで残る事業者の顔ぶれが固定化されてしまったように感じます。新たな事業者に応募していただくための方策を考えるなど、今後のアワードの発展のために新たな取り組みを考える時期に来ているように思いました。

---

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会 副評議員長

---

今年度の三次審査の結果、一般部門において受賞作は2点しか出なかった。応募作が22点に対して受賞率10%に満たないのである。他方、産業部門の応募作は2点しかなかったが、2点ともに受賞している。これらの2作品はマニュアル制作の基本的なお作法がきちんと守られており、さらに独自の工夫が盛り込まれていた。それに対して、一般部門の応募作には基本的なお作法が守られていない作品が多かったのである。中でも、IEC/IEEE 8079-1:2019の要求で

ある「製品の概念情報の記載」が満たされていないことが特に気になった。製品を初めて手にしたユーザーにとって、製品の概念情報は非常に重要である。しかし、想像の域を出ないが、マニュアルの製作者にとって製品の概念情報が分かり切ったことであるがゆえに、それを記載することにまで気が回らなかったのではないだろうか。今後マニュアルを制作する方々は製品の概念情報の記載をぜひ忘れないでほしい。

3次審査に参加し9点のマニュアルを拝見しました。3次審査の対象となるマニュアルですから、一定の質を保ちながら、それぞれに工夫されたポイントがありました。コンテストゆえに、マニュアルオブザイヤー候補作品を選定すべく優劣をつけさせていただきましたが、どのマニュアルも熱意をもって作成なさっていると強く感じた次第です。

さて、今回の審査で感じたことを以下に述べます。まずは紙冊子の「強さ」です。多様な媒体が利用できる状況にあるなか、コンテストに応募することがフィルターになっているかもしれませんが、紙冊子が残っていると感じました。同時にQRコードの「活躍」も印象的でした。紙冊子にQRコードを掲載することが一般的となり、説明情報全てを紙面に記載する必要がなくなったことを意味するのだと思いました。つまり、紙か電子かではなく、両者の並行利用が当然となり、「お手元に取り扱説明書とスマートフォンをご用意ください」が当たり前になるのだと感じました。



# 株式会社ミットヨ



**受賞作**

MOY 受賞マニュアル制作に携わった工場、営業、サービス、商品分科会、テクニカルコミュニケーション室の主なメンバー

## ■ミットヨについて

株式会社ミットヨは、1934年に創業し、2022年で創業88年を迎えた精密測定機器の総合メーカーです。

創業当時、ほぼ100%を輸入に頼っていたマイクロメータの国産化に取り組み、1936年に東京都蒲田工場で生産を開始しました。



国産第1号のマイクロメータ

海外への展開は、1963年に初の販売拠点をアメリカに、続いて1968年にドイツに設立しました。その後、南米やヨーロッパ、アジアなどへ販売ネットワークを広げ、現在では30カ国の拠点と60カ国

以上の代理店でグローバル展開しています。

ミットヨでは、ノギス・マイクロメータのような小さな測定工具や大型で複雑な形状を測定するための三次元測定機、レーザーを使った非接触測定機など、5,500種類以上の商品を開発・製造・販売しています。これらすべての商品は、栃木、神奈川、岐阜、広島、高知、宮崎の工場で生産しています。



ミットヨ商品ラインアップ

※ 青色部分が受賞したマニュアル対象商品AT1100

「精密測定で社会に貢献する」を経営理念に、自動車、機械、電気・電子、航空機、半導体、医療、クリーンエネルギーなど、さまざまな産業分野のモノづくりを「測る」で下支えすることで、お客様や社会の

発展に貢献したいとミットヨは考えています。

## ■ テクニカルコミュニケーション室について

テクニカルコミュニケーション室（以下 TC 室）は、2012 年 3 月に取説改善準備ワーキンググループからスタートし、取説改善プロジェクトを経て、テクニカルコミュニケーションの専門部門として2015 年 5 月に神奈川県川崎市のミットヨ本社の一部門として設立されました。

設立時の目的である「分かりやすい使用説明書（取扱説明書など）を関係各部門と連携して作成し、顧客満足度の向上を図り事業発展に貢献する。」を実現すべく、現在専任9 名体制で活動しています。



ミットヨ本社ビル外観(神奈川県川崎市)

TC 室のメンバー 1 人 1 人が、各生産拠点の開発・設計部門、営業部門、サービス部門の担当者と連携しながら、お客様満足度を向上させるべく、さまざまなユーザーズマニュアル、基本操作ガイドなどの制作・標準化・品質改善に邁進しています。

さらに、世界中のお客様に向けて、日本語・英語を含む 20 カ国語多言語マニュアルを、各国の現地法人と協同で制作しています。



TC 室の仕事風景(2020 年 1 月時点)

## ■ TC室の取り組み

TC 室が発足する以前のマニュアルは、各生産拠点の開発・設計部門が制作していました。そこでまず取り組んだことは「己を知る」ということでした。2015 年 11 月に開発・設計部門が制作したマニュアル 5 種を選び、定量評価と国際規格 IEC82079-1 に準じた定性評価を一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会（以下 TC 協会）に依頼しました。結果は、評価基準（合格ライン）である 50 点に届いたのは 1 種のみというとても悲惨なものでした。

それ以降毎年、TC 室で制作したマニュアルを対象に TC 協会の「外部評価」や「マニュアルアワード参加」および、「社内モニタリング」や「顧客モニタリング」を実施しています。そこから得た有識者および第三者の客観的な評価・ご意見・ご要望を TC 室メンバー全員で分析・検討し、その検討結果を私達のマニュアル制作の基準である「マニュアル制作ガイドライン」に反映させ、次の制作につなげる一連のサイクルを回しながら、マニュアルの品質改善と標準化を併せて進めています。



## ■ アブソリュートリニヤスケールAT1100について

MOYを受賞した商品であるアブソリュートリニヤスケールAT1100（以下AT1100）は、各種NC工作機械や半導体製造装置などに取り付けられ、「精密加工時の高精度な位置決めを実現する1つの部品」として使用されています。

AT1100 の製造を担う栃木県宇都宮市にある清原工場では、精度保証の要となる国家標準とトレーサブルなスケールの原板を年間を通して温度変化・

振動の少ない工場の地下9mにある研究棟で作っています。



地下9mにある研究棟

## ■ AT1100 ユーザーズマニュアル品質改善について

お客様視点で「分かりやすい」・「探しやすい」・「取り扱いやすい」マニュアル制作をするためには、部門の垣根を越えた協同作業が不可欠です。マニュアルの制作部門である TC 室が中心となり、開発・設計部門からは技術情報、サービス部門からは実際の作業・操作手順、営業部門からはお客様の意見・要望などを集め、それらを元にマニュアルの構成や内容を検討して制作する作業スタイルを採用しています。今回の AT1100 の場合もこのスタイルで制作を進めました。

### ・マニュアル品質改善のきっかけと改善策

AT1100 ユーザーズマニュアルの品質改善に取り組んだ背景は、海外の工作機械メーカーで取り付け作業ミスによる問い合わせが発生したことです。そこで『誰でも、何処でも、同一品質の取り付け作業が実施できる』が実現できる改善策を検討しました。実際の作業に沿ったページ構成への全面見直しやイラストの差し替え、説明内容の再検討と共にテキストだけでは分かり辛い内容を補足

するための補助動画の組み込みなどを行いました。中でも特に補助動画の制作に注力しました。

### ・補助動画の制作

AT1100 補助動画では「取り付け作業で注意すべき点」を具体的に示すことを目標にし、一連の作業である企画（シナリオ作成）、撮影、モニタリング、編集作業を社内で行いました。特に「分かりやすい動画」にするためのシナリオ作成は苦労したところです。開発・設計部門、営業部門、サービス部門の担当者を交えてシナリオ案を作り、サンプル動画を撮影・編集して、各部門および海外現地法人のモニタリングを行い、改善点が見つかるたびにシナリオに手を加えて皆で再検討を重ね、その上で動画の撮り直しも行いました。また、編集作業でもレイアウトパターンや挿入するテロップを何度も見直し、より分かりやすい動画となるように工夫を重ねました。

完成後の社内モニタリングでは、「テキストの説明と補助動画の説明があるため、分かりやすかった」、「QR コードから動画を見ることができた点が非常に良かったです。他商品のマニュアルにもさらに展開して欲しいと思います」などの意見をいただきました。今後も、他の商品への横展開を引き続き計画していきます。



AT1100 補助動画の一部

## ■ 今後の取り組み

弊社は、商品の「品質」と「信頼性」を追求し成長してきた企業です。

マニュアルの制作においても同様に、前述の「マニュアル制作のサイクル」を継続実施し、「マニュアル制作ガイドライン」など標準化ツールを更新・改訂しながら、マニュアルの品質向上・維持管理を進めていきたいと考えます。

## ■ コンプライアンス

品質が良く、完成度が高いマニュアルを制作することは重要なことですが、制作をする上でコンプライアンスを遵守することも忘れてはいけません。例えば、外国為替及び外国貿易法（外為法）です。その法令の第 25 条に「技術の提供」が規制されています。

マニュアルは「使用に係わる技術」に該当し、国内外を問わず安全保障貿易管理上の観点から該非判定は必要です。弊社ではマニュアル制作後、主管工場と商品と共に該非判定を実施し、本社安全保障管理部の最終承認を得て、初めて HP 掲載や商品と同梱出荷できるフローが構築されています。

また、弊社のようにグローバル展開しているメーカーでは、各国・地域の規制への対応も必須です。ここ数年、欧州の商品規制（RoHS、CE マーキング

など）は毎年のように更新され、商品だけでなく、マニュアルの記載内容への対応も要求されています。大変な作業ではありますが、迅速で確実な対応を実施しています。

## ■ アワードの受賞実績

### • 2018 年度：

- ・レーザースキャンマイクロメータ (LSM-6200：多機能操作表示部) ユーザーズマニュアルが「産業部門 優良賞」
- ・表示用地震計 (ADA-7) セットアップマニュアルが「奨励賞」

### • 2019 年度：

- 表面粗さ／輪郭形状測定機 表面粗さ・輪郭形状解析プログラム (FORMTRACERAvant/FORMTRACEPAK V6) 基本操作ガイドが「産業部門 優秀賞」

### • 2022 年度：

- アブソリュートリニヤスケール (AT1100 シリーズ) ユーザーズマニュアルが「産業部門 優秀賞」、「MOY ノミネート賞」、「マニュアルオブザイヤー 2022」





# 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会(略称JTCA、英文名称Japan Technical Communicators Association)は、製品・サポート情報の発信に携わる専門家の団体です。

1992年1月に任意団体として設立され、2009年1月に一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会として発足しました。

## 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

本財団は、製品・サポート情報の品質改善により国民生活の向上を目指すとともに、各種製品・サービスの利用に際しての安全性向上と誤使用防止、および製品・サービス供給者におけるリスク管理への寄与につとめ、技術の活用およびそれから得られる体験価値における社会的・地域的格差の解消を図るため、以下の公益目的を達成するための活動を行う。これらの公益活動を通じて、供給者および受益者における情報リテラシーの向上に寄与すると共に、製品・サポート情報を効果的かつ効率的に提供する技術を高め、その技術に携わる多様な人々の相互交流と研鑽を積む事により、社会貢献を果たす。

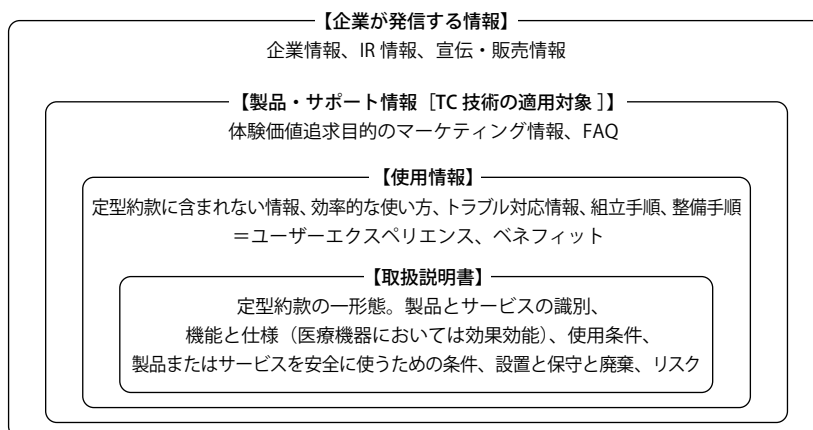
出典:定款第6条から一部抜粋、2019年

## テクニカルコミュニケーション(TC)技術とは

法令要求に基づき、企業がつたえなければならない製品・サポート情報を、技術的に正確に、かつ理解されるように表現してこれを必要とする者につたえる事を専門領域とし、製品の一部としての使用情報の作成実務を担うとともに、製品とサービスの活用を通じた体験価値の高度化と使用者保護の両立に寄与する事を社会的使命とする技術国際規格に即した工程モデルを推進する技術である。

出典:『製品・サポート情報のつたえかたコンプライアンスと校閲編第1版』TC協会編著

### 製品・サポート情報とは:



出典:製品・サポート情報のつたえかた コンプライアンスと校閲編 第1版

## テクニカルコミュニケーターとは

- 製品・サポート情報の発信に携わる専門家
- 製品・サポート情報を企画し、制作を統括するプロジェクトマネージャー
- ユーザビリティ設計および開発の担当者
- 理解しやすい説明文を書き起こすテクニカルライター
- イラストや概念図などを作成するテクニカルイラストレーター
- オーサリングシステムを用いて制作実務を担う Technical author
- 情報の適切な配置を決め、使いやすさを向上するデザイナー
- 海外向けの使用情報に携わる翻訳者およびローカライゼーション担当者
- 認知科学、心理学、デザインなどの研究者、教育者

出典:一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 Webサイト、整合のため一部改変  
整合根拠: ISO/IEE 82079-1:2019、  
『製品・サポート情報のつたえかた コンプライアンスと校閲編 第1版』TC協会編著

# 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会の活動

## ●シンポジウム

- ・夏季は「コミュニケーションデザインシンポジウム2023」としてオンラインライブ配信にて開催
- ・秋季は「テクニカルコミュニケーションシンポジウム2023」として対面にて開催

## ●ジャパンマニュアルアワード

- ・年度最優秀マニュアル(マニュアル オプザイヤー)の選出と表彰
- ・国際規格(IEC82079-1)に基づく評価

## ●学術研究産学協同

- ・TC技術発展に向けて調査研究活動を大学などの公的研究機関と連携
- ・テクニカルコミュニケーション・リデザイン学術研究会での研究成果の共有

## ●海外交流推進

- ・欧州のTC専門組織(ドイツtekomp)と連携
- ・ドイツのtcworldとの共催と相互交流
- ・TC国際円卓会議の推進
- ・IEEEとの交流
- ・中国CTCAなど他国のTC関連団体との交流

## ●標準規格策定

- ・標準制作工程の検討
- ・使用情報に関する国際規格の策定/改定(IEC82079シリーズ)
- ・カタカナ表記ガイドラインの策定/改定
- ・TC用語の国際規格の策定
- ・使用情報のJIS規格策定

## ●人材育成事業

- ・セミナーによる人材育成活動
- ・最新の制作ツールなど、新しい技術動向の解説
- ・大学向けTC専門課程認定制度導入校の拡大

## ●TC技術検定事業

- ・全国共通の基準でスキルの到達度を判定  
3級:テクニカルライティング試験(TW)  
2級:使用情報制作実務試験(MP)  
2級:使用情報制作ディレクション試験(DR)
- ・2級TCスペシャリスト認定制度

## ●国際TC検定試験事業

- ・ドイツTC協会(tekomp)認定のTCTrainNetを活用した英語によるTC技術の学習、試験による国際的なTC資格取得の推進

## ●出版事業

- ・TC技術解説書(兼TC技術検定ガイドブック)の発行  
日本語スタイルガイド(第3版)  
トリセツのつくりかた:制作実務編  
製品・サポート情報のつたえかた  
コンプライアンスと校閲編(第1版)  
トリセツのつくりかた:品質追求編(新編集版)
- ・使用説明関連の中国国家標準解説書
- ・機関紙Frontierの発行

## ●受託事業

- ・マニュアル等の製品・サポート情報の評価サービス(国内向け、海外市場向け)

詳細はTC協会webサイトで紹介しています。  
<https://www.jtca.org/index.html>



# 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 入会特典

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会では、魅力ある多数の特典を用意して、皆様のご入会をお待ちしています。

会員数:2022年12月1日現在  
法人会員:90社  
個人会員:129名

## ■製品・サポート情報の収集および活用

### 1)TC技術検定試験の活用

- ・制作関係職種の人材育成の指針と到達度評価に活用できます。
- ・人事制度上の各種施策への利用ができます。

### 2)マニュアル評価技術の活用

- ・マニュアル評価基準で自社マニュアルの評価と品質向上につながられます。
- ・ジャパンマニュアルアワードの評価結果を受け自社のレベルが把握でき、改善目標が明確になります。授賞した作品は、社内への有効なPRにもなります。
- ・マニュアル評価審査員講習会に参加でき、評価方法/技術を習得できます。

### 3)TCシンポジウムの活用

製品・サポート情報の今後を見すえ、プログラム内容は毎年更新しています。

- ・パネルディスカッション、特別セッション、事例発表の参加を通じ、TCに関する新しい研究成果や技術、仕組みなどが習得できます。
- ・他社、制作会社など業界動向(表現技術、ツール、UX、DX、標準化、翻訳等)を幅広く把握できます。

### 4)調査研究成果の活用

国内にとどまらず、海外の関係団体との協業による活動を強化しています。

- ・使用情報の制作技術・技法、人材育成などの調査、分析の成果を制作環境に反映できます。
- ・単独では難しい課題や案件が、複数企業が共同して取り組み、成果につなげることができます。
- ・共同調査研究活動で業界他社や関連官庁、公共機関等にもパイプをひろげることができます。

### 5)会員との相互交流の場の活用

協会行事運営への参加(各種実行委員会、ワーキンググループ、実務技術研究会など)により、交流を通じ、人脈を拡大できるとともに、他社の使用情報制作の課題や組織体制などの情報収集ができ、自社のレベルを把握できます。

## ■会員料金と会員割引特典

【年会費】 法人会員:18万円(入会金不要) 個人会員:1万円(入会金は1万円)

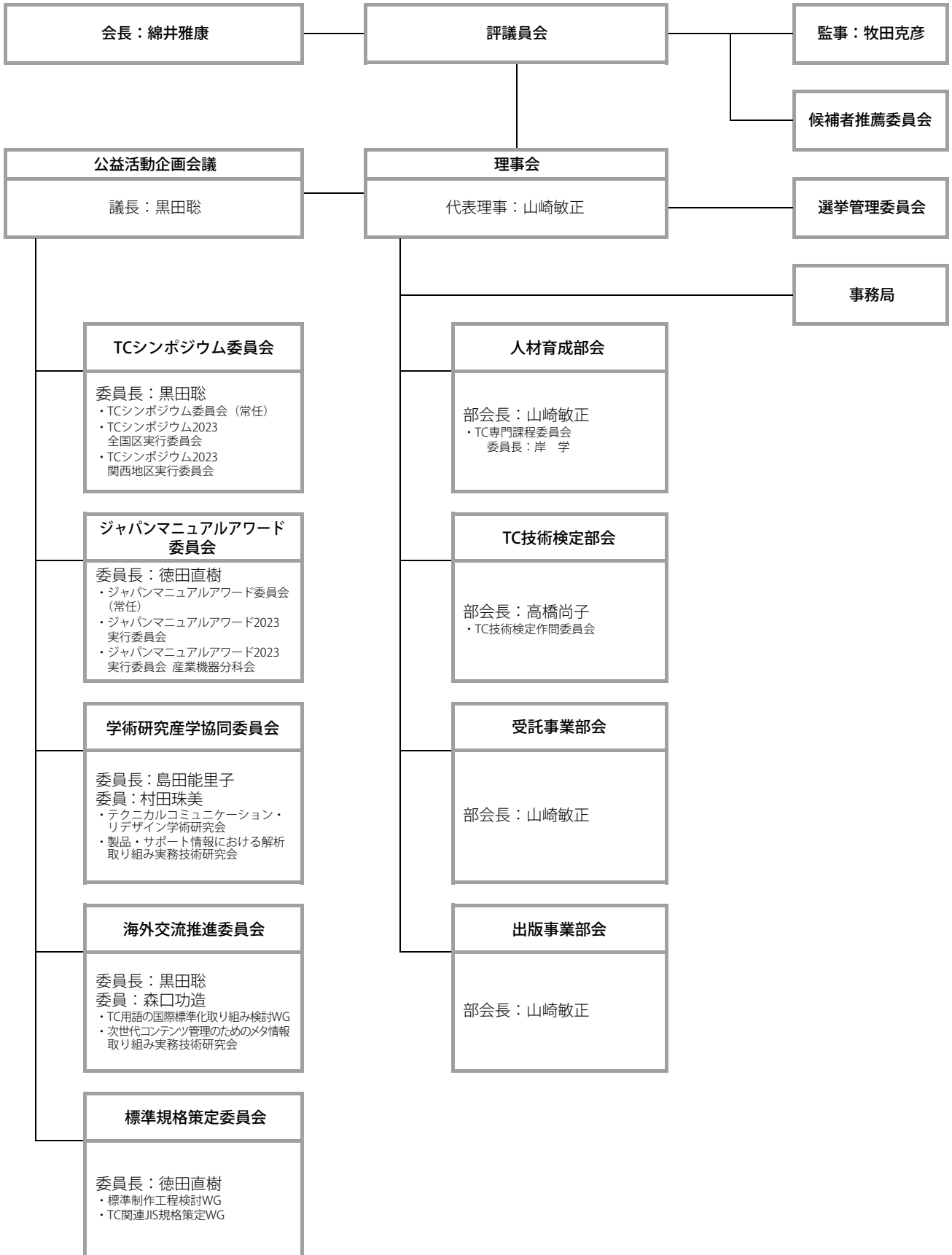
- ・TC技術検定試験の会員受験料金は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。
- ・TC実務セミナーの会員受講料は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。
- ・TCシンポジウムの会員参加料金は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。

## ■法人会員にはさらに大きな特典

- ・法人会員の場合は入会法人社員のすべての参加者・受験者に会員価格が適用(個人会員は本人1名のみ)
- ・TCシンポジウムにおける商品発表および商品展示、プログラムへの広告掲載料金が割安
- ・機関誌『Frontier』への広告掲載料金が割安
- ・マニュアル等の製品・サポート情報の個別評価価格が割安

# 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

組織体制:2023年1月5日現在



## Frontier (フロンティア) 第17号 2023年2月発行

発行：一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-34-2 第一後藤ビル 101 号室

Tel.03-3368-4607 Fax.03-3368-5087

<https://www.jtca.org>

発行人：綿井 雅康

編集責任者：山崎 敏正

企画／編集：TC 協会出版部会

表紙・本文デザイン：菊池美範（株式会社エイアール）／吉光さおり（Kamigraph Design）

制作：株式会社パセージ

©Japan Technical Communicators Association 2022

**JICA**